
徳島市
在宅介護実態調査報告書

令和2年3月

目 次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 回収状況	1
(4) 報告書の見方	1
2. 調査結果	2
(1) 世帯類型	2
(2) 主な介護者	2
(3) 家族等による介護の状況	4
(4) 主な介護者が行っている介護等	5
(5) 仕事と家庭の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	6
(6) 介護のための働き方の調整と勤め先からの効果的な支援	8
(7) 介護のための離職の有無	12
(8) 介護保険サービス以外の支援・サービスについて	13
(9) 施設等への入所・入居の検討状況	18
(10) 本人が抱えている傷病	18
(11) 訪問診療利用の有無	19
(12) 介護保険サービス利用の有無	20
(13) 介護保険サービス利用の組み合わせ	21
(14) 介護者が不安に感じる介護等	24

1. 調査概要

(1) 調査目的

「徳島市第8期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画」(計画期間:令和3年度から令和5年度まで)を策定するにあたり、「要介護者の在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」に有効な介護サービスの在り方を検討するため、本調査を実施しました。

(2) 調査の実施について

以下の調査を実施しました。

調査種類	在宅介護実態調査
対象者	本市にお住まいの在宅で生活している要支援・要介護者のうち、調査期間中に要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた人
実施期間	平成30年10月1日～令和元年9月30日
実施方法	認定調査員による聞き取り調査

(3) 回収状況

配布数	回収数		有効回収率
	全体	有効	
645件	645件	645件	100.0%

(4) 報告書の見方

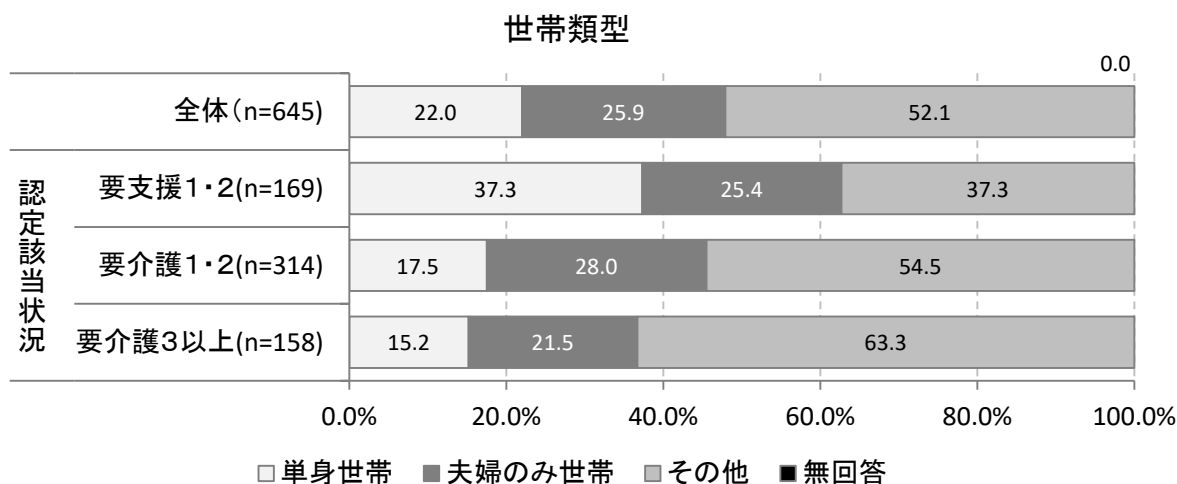
調査結果を見る際の留意点は以下のとおりとなっています。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中にMA(=いくつでも回答可)、3LA(=3つまで回答可)と記載しています。また、不明(無回答)はグラフ・表から除いている場合があります。

2. 調査結果

(1) 世帯類型

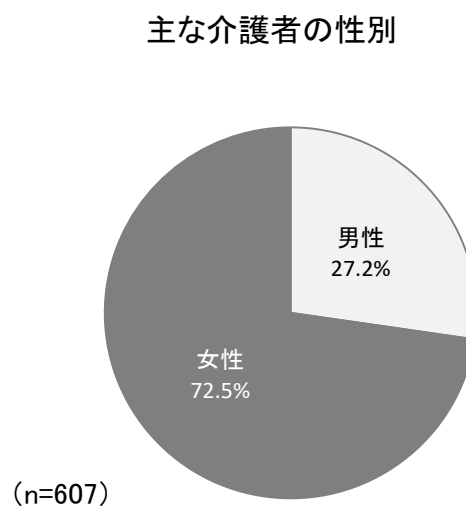
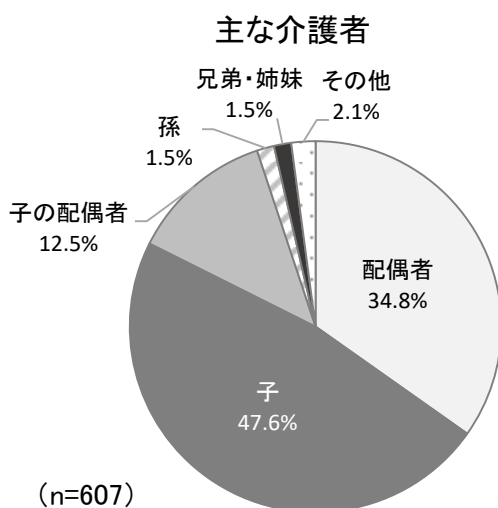
世帯類型は、「単身世帯」で22.0%、「夫婦のみ世帯」で25.9%、「その他」で52.1%となっています。認定該当状況が重度化するにつれて「単身世帯」が少なくなり、要介護3以上では「その他」が6割以上を占めていることから、認定該当状況が重度化するにつれて単身での生活が困難になることがうかがえます。



(2) 主な介護者

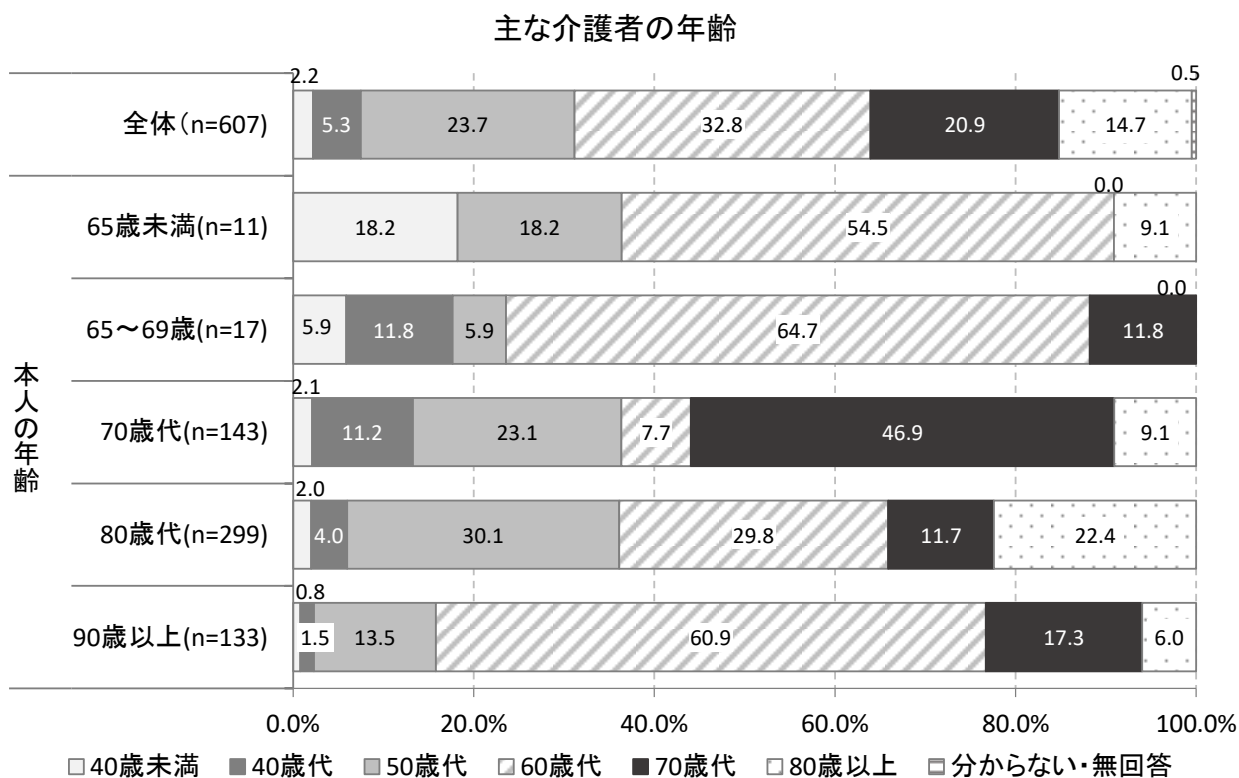
主な介護者は「子」が最も多く、47.6%、次いで、「配偶者」が34.8%、「子の配偶者」が12.5%となっています。

また、性別は「男性」より「女性」が多くなっています。

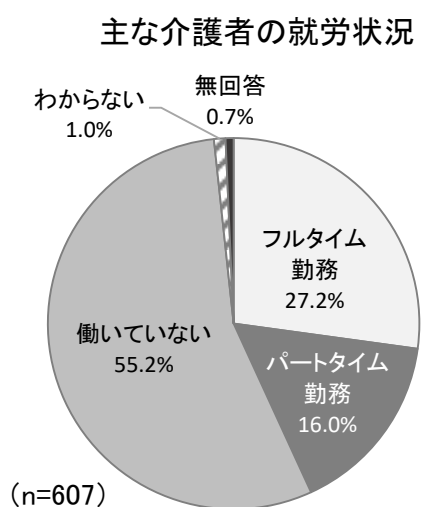


主な介護者の年齢は「60歳代」が最も多く32.8%、次いで、「50歳代」が23.7%、「70歳代」が20.9%となっており、「40歳未満」「40歳代」はわずか7.5%となっています。

また、主な介護者の年齢を本人の年齢別に見ると、65歳未満、65～69歳、90歳以上では「60歳代」、70歳代では「70歳代」、80歳代では「50歳代」が最も多くなっています。



就労状況は「働いていない」が半数を占めており、次いで、「フルタイム勤務」27.2%、「パートタイム勤務」16.0%となっています。

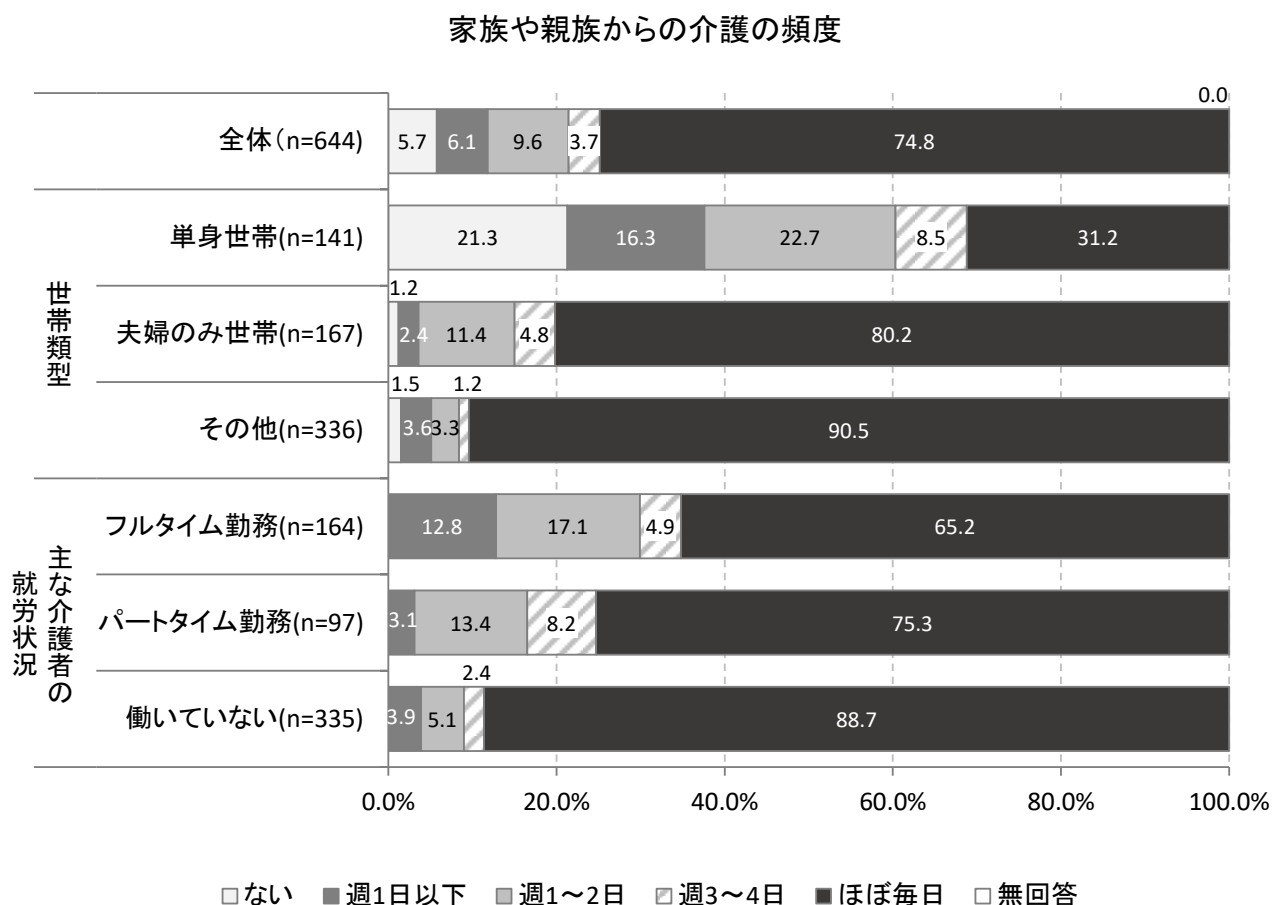


(3) 家族等による介護の状況

家族や親族からの介護の頻度（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）を尋ねると、全体の74.8%が「ほぼ毎日」何らかの介護を受けている状態となっています。

世帯類型別に見ると、「ほぼ毎日」と回答した人は、「単身世帯」で31.2%、「夫婦のみ世帯」で80.2%、「その他」で90.5%となっています。

主な介護者の就労状況別に見ると、「ほぼ毎日」と回答した人は、「働いていない」が最も多く88.7%で、次いで「パートタイム勤務」で75.3%、「フルタイム勤務」で65.2%となっています。

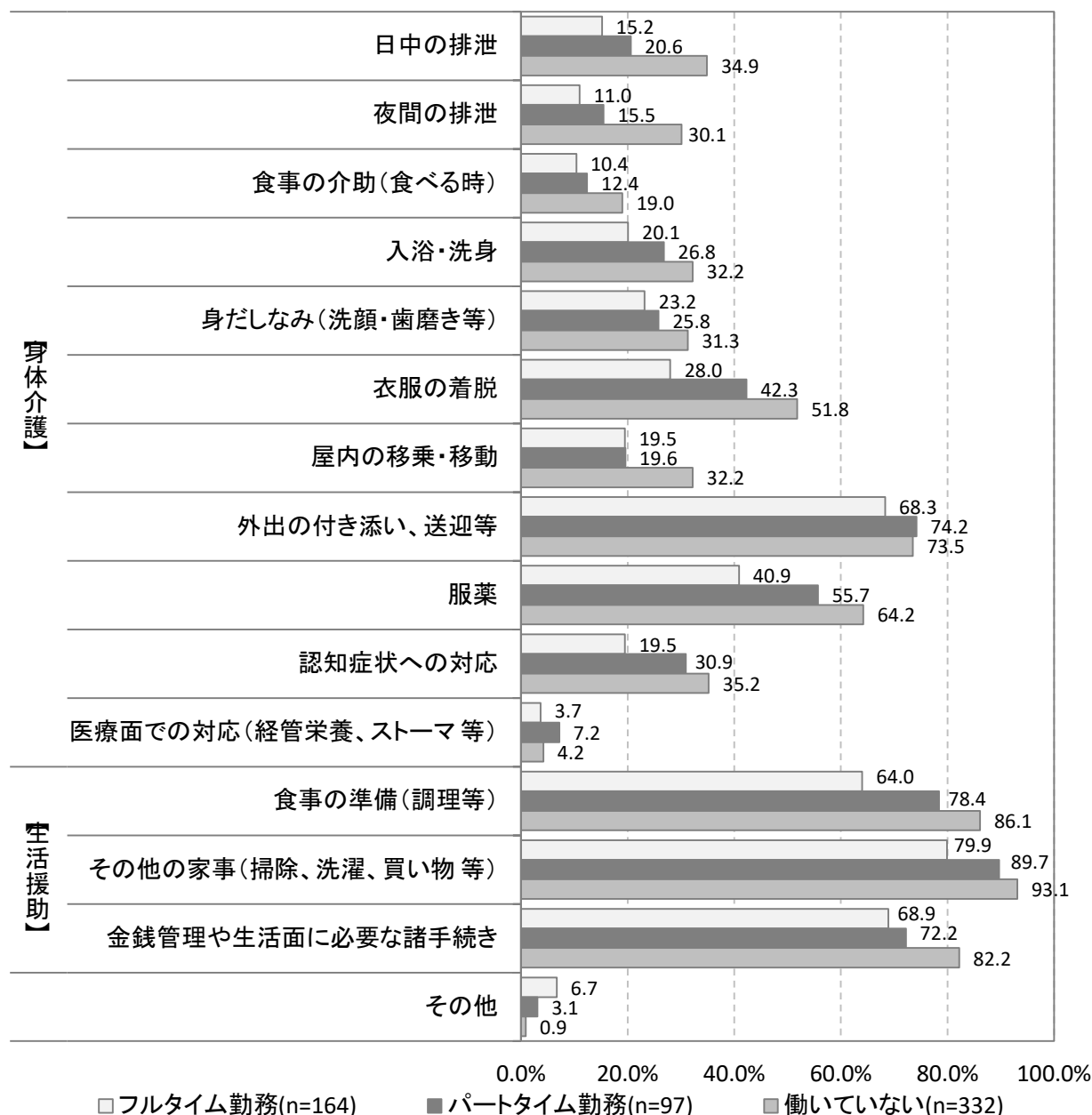


(4) 主な介護者が行っている介護等

主な介護者が行っている介護等は、身体介護では「外出の付き添い、送迎等」「服薬」「衣服の着脱」が大半を占めています。また、生活援助では「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の3項目全てが多くなっています。

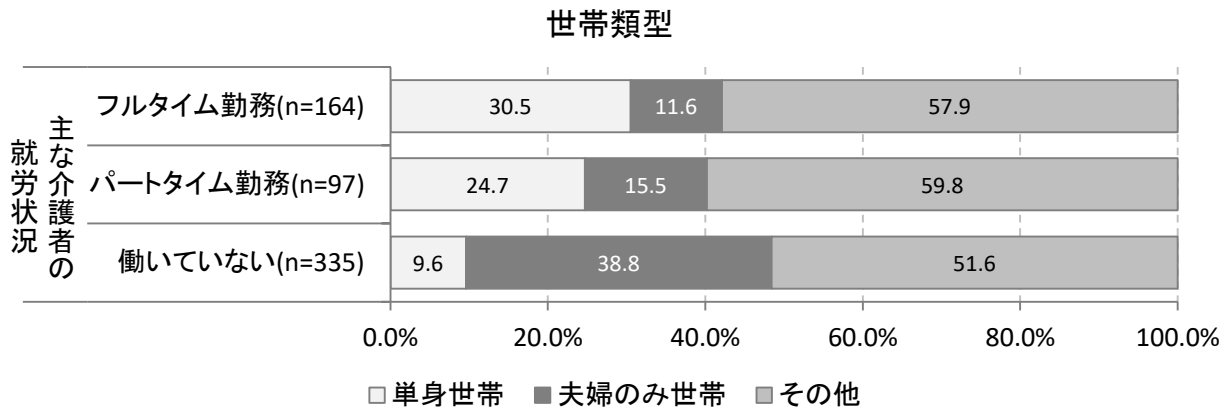
主な介護者の就労状況別に見ると、身体介護のうち「外出の付き添い、送迎等」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を除いた項目では、「働いていない」が最も多く、特に「日中の排泄」「夜間の排泄」「屋内の移乗・移動」は、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」よりも10ポイント以上多くなっています。

主な介護者が行っている介護等(MA)

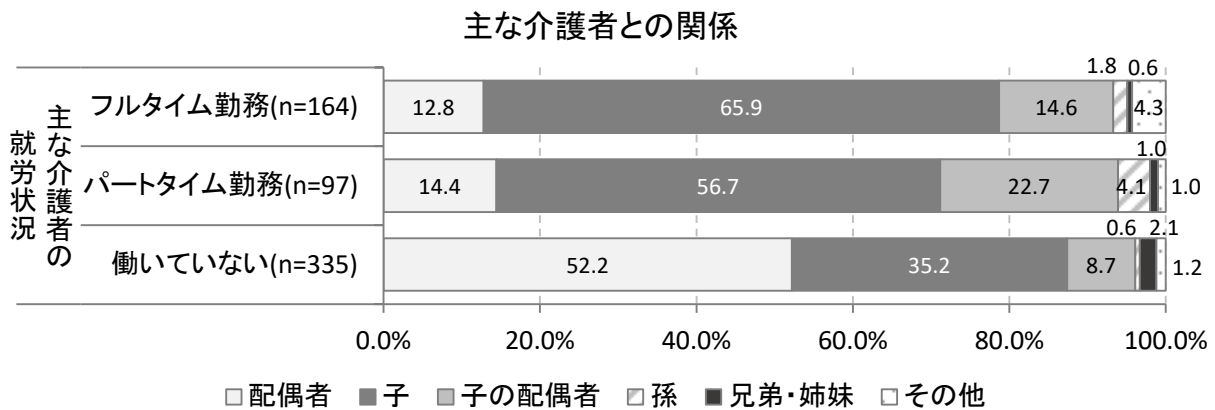


(5) 仕事と家庭の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

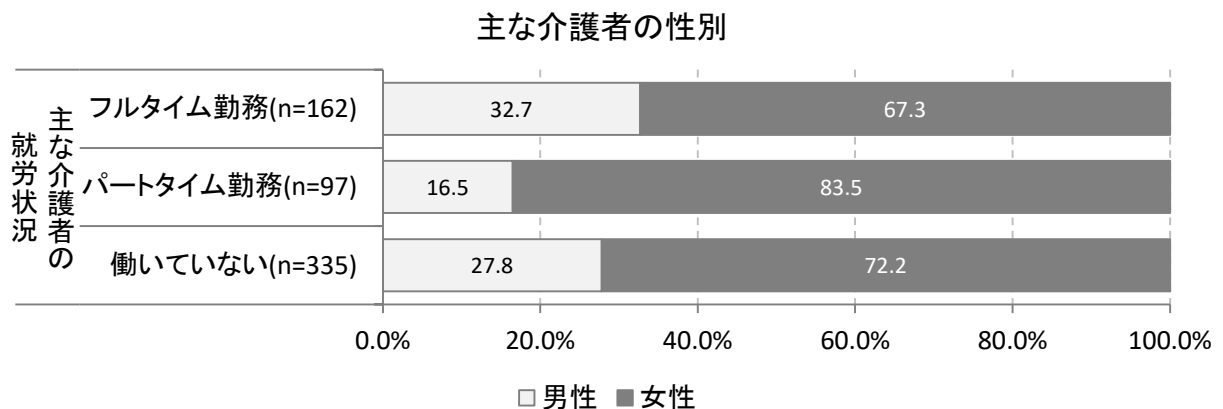
本人の世帯類型は、「単身世帯」では「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」の割合が多く、「夫婦のみ世帯」では「働いていない」の割合が多くなっています。



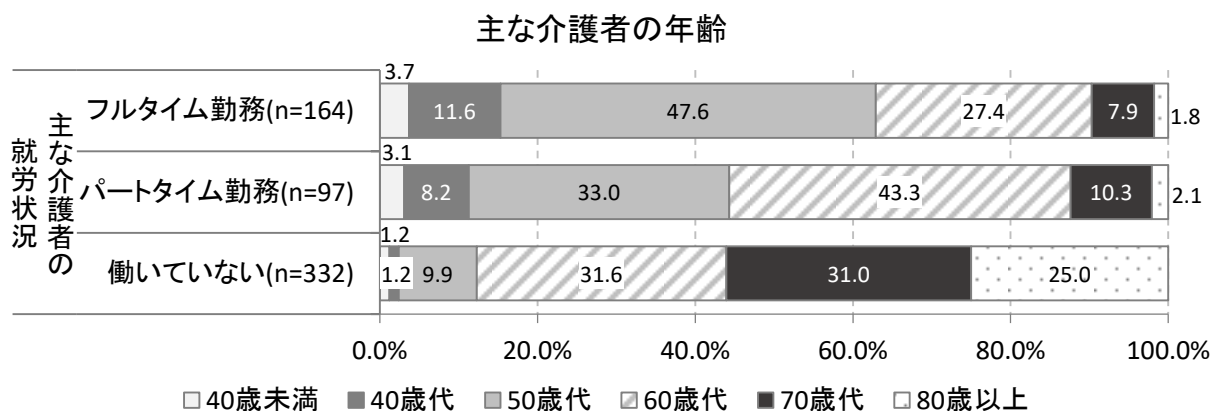
主な介護者との関係は、「フルタイム勤務」及び「パートタイム勤務」では「子」が半数以上を占めていますが、「働いていない」は 35.2%となっており、「配偶者」が半数以上を超えています。



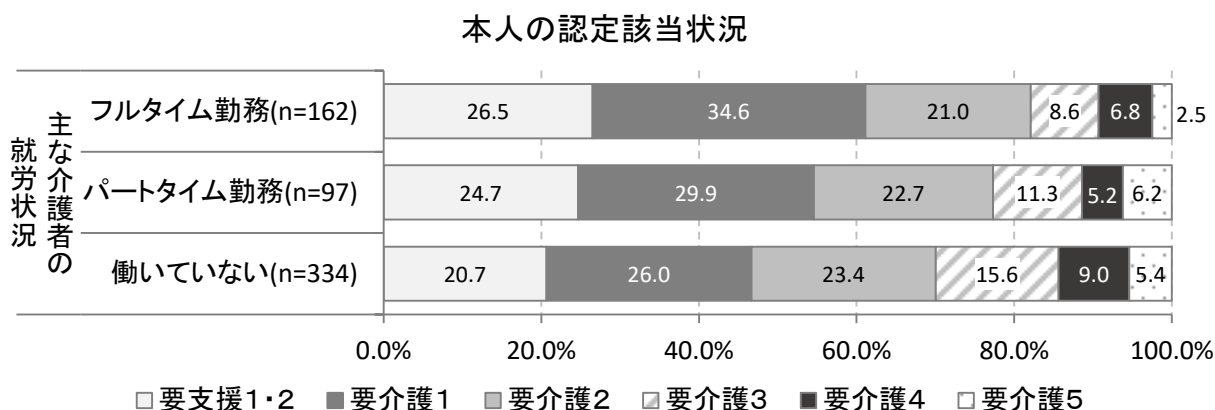
主な介護者の性別は、すべての就業状況で「女性」が多く占めており、特に、「パートタイム勤務」では 83.5%を占めています。



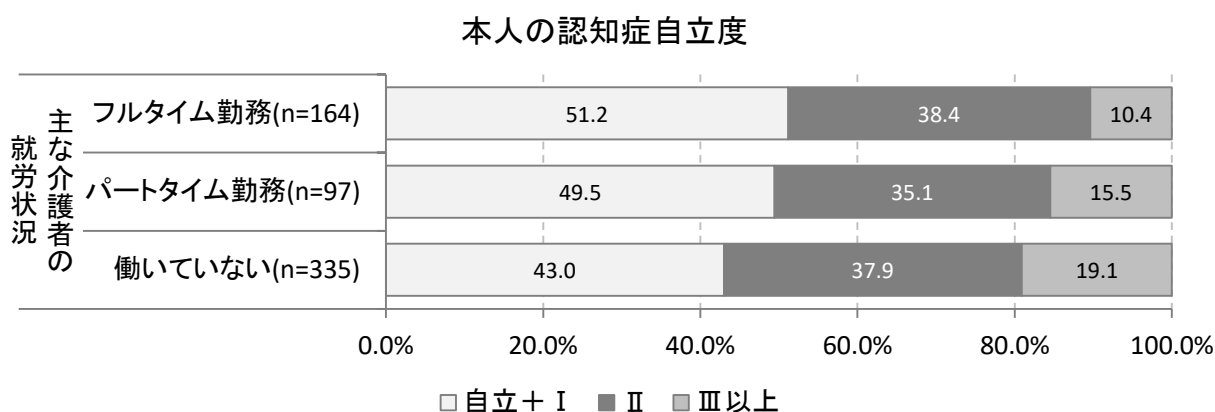
主な介護者の就労状況別の年齢は、「フルタイム勤務」では「50歳代」が47.6%で最も多く、次いで、「60歳代」「40歳代」の順となっています。「パートタイム勤務」では「60歳代」が43.3%で最も多く、次いで「50歳代」「70歳代」となっており、「働いていない」は「60歳代」「70歳代」それぞれ約3割を占めています。



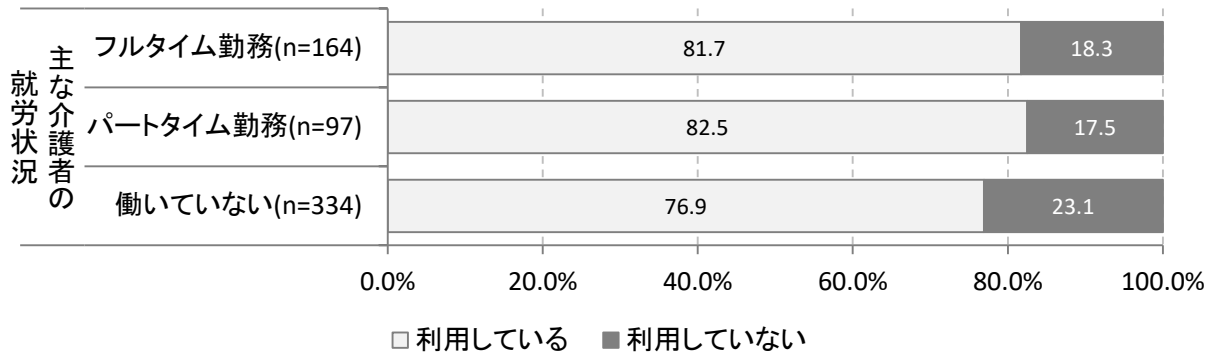
主な介護者の就労状況別に本人の認定該当状況を見ると、すべての就労状況で「要介護1」が最も多くなっており、「フルタイム勤務」より「パートタイム勤務」と「働いていない」人で、より重度の認定該当状況の占める割合が多くなっています。



主な介護者の就労状況別による本人の認知症自立度及び介護保険サービスの利用の有無についてはあまり差がありませんでした。



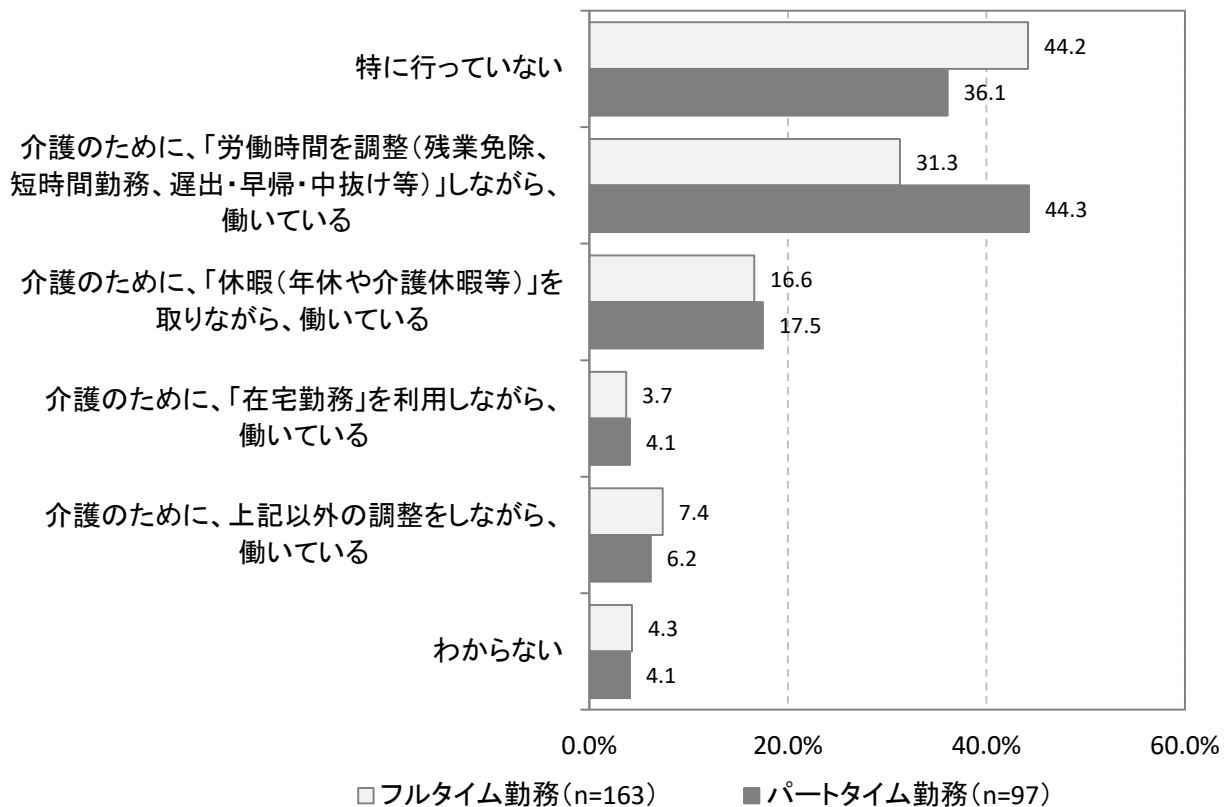
介護保険サービスの利用の有無



(6) 介護のための働き方の調整と勤め先からの効果的な支援

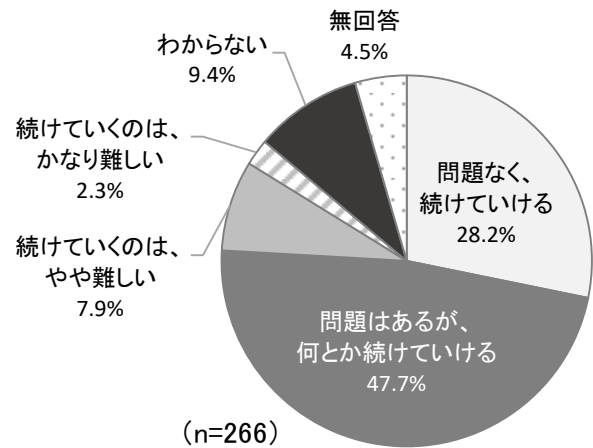
現在就労している人（「フルタイム勤務」及び「パートタイム勤務」と回答）に、介護をするにあたって働き方の調整等を行っているかを尋ねると、「フルタイム勤務」では「特に何も行ってない」が44.2%で最も多く、次いで「介護のために、《労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早出・中抜け等）》しながら、働いている」が31.3%となっています。「パートタイム勤務」では「介護のために、《労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早出・中抜け等）》しながら、働いている」が44.3%で最も多く、次いで「特に行っていない」が36.1%となっています。

介護のための働き方の調整(MA)



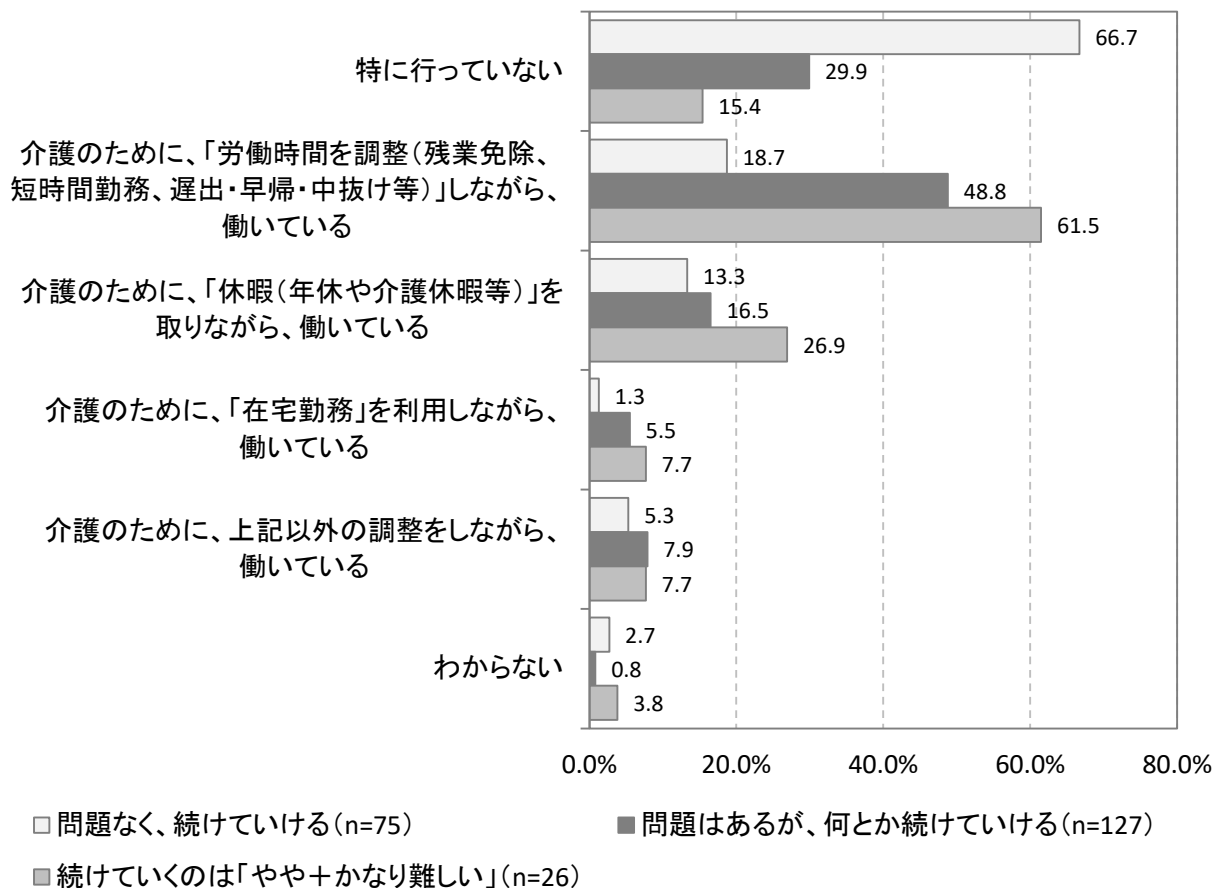
現在就労している人（「フルタイム勤務」及び「パートタイム勤務」と回答）に、今後も働きながら介護を続けていけるか尋ねると、「問題はあるが、何とか続けていける」が47.7%で最も多く、「問題なく続けていける」とあわせると75.9%が“続けていける”と回答しています。「続けていくのは、やや難しい」及び「続けていくのはかなり難しい」と回答した人は10.2%となっています。

介護者の就労継続の可否に係る意識



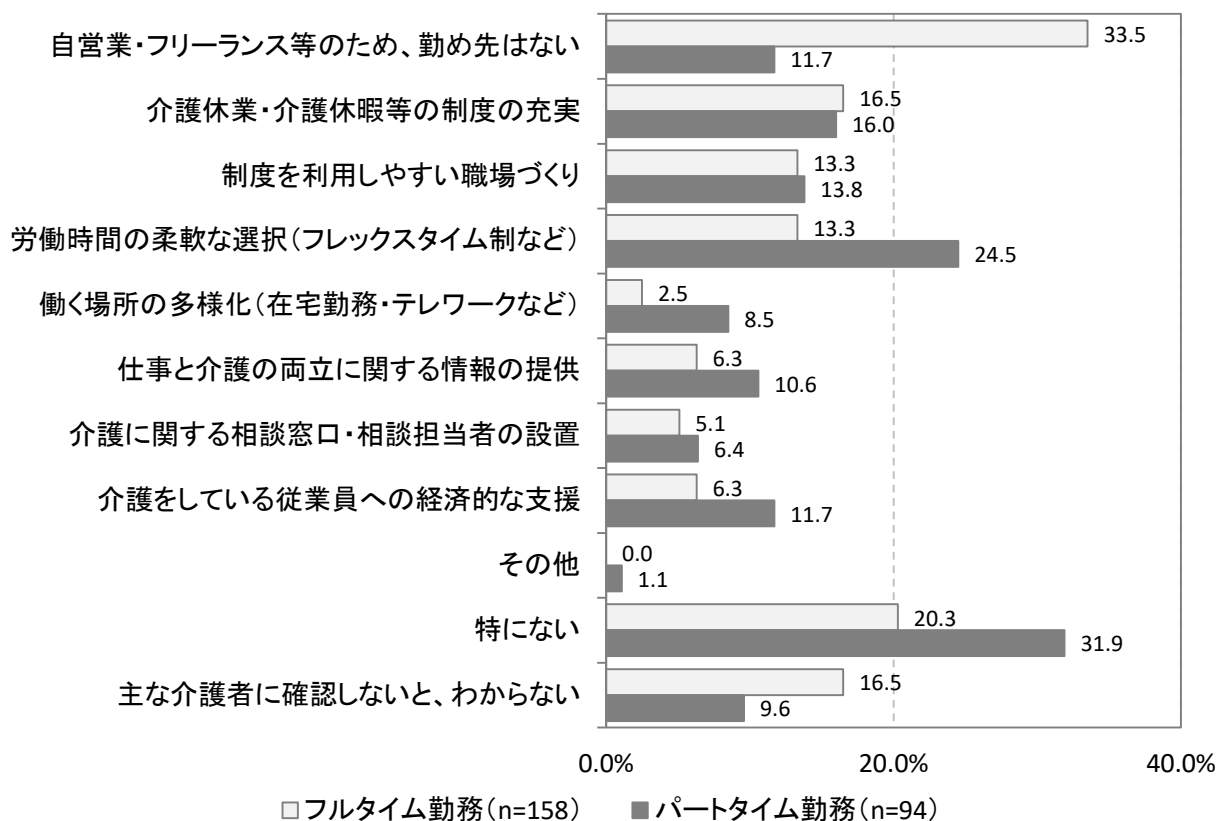
介護のための働き方の調整を介護者の就労継続の可否に係る意識別に見ると、「介護のために、《労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）》しながら、働いている」「介護のために、《休暇（年休や介護休暇等）》を取りながら、働いている」「介護のために、《在宅勤務》を利用しながら、働いている」と回答した人は就労継続が難しくなるにつれて割合が多くなっています。

介護のための働き方の調整(MA)



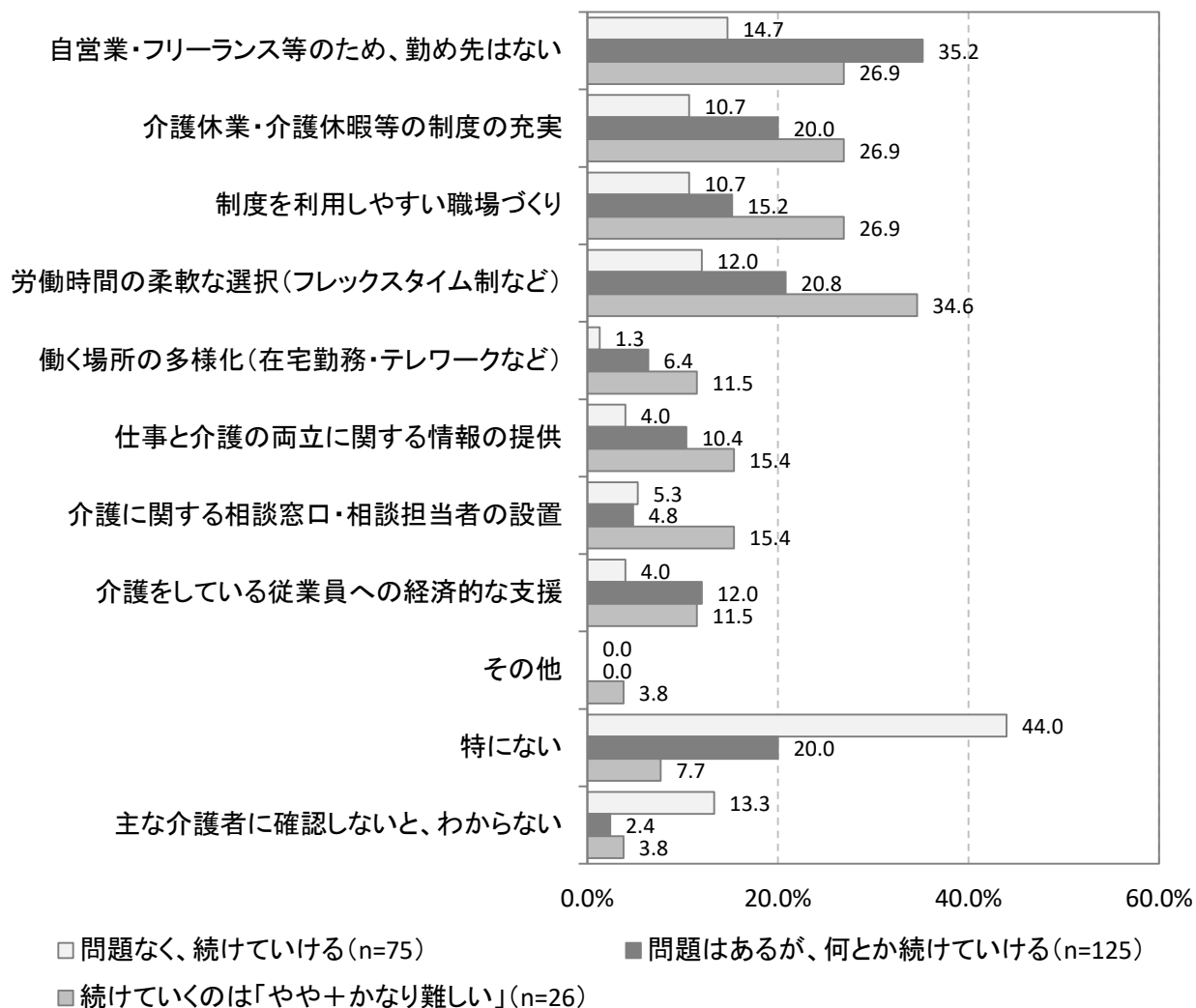
現在就労している人（「フルタイム勤務」及び「パートタイム勤務」と回答）に、主な介護者は勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うかを尋ねると、「自営業・フリーランス等のため勤め先はない」と「特にない」を除くと、「フルタイム勤務」では「介護休業・介護休暇制度等の制度の充実」が16.5%となっており、「パートタイム勤務」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」24.5%となっています。

勤め先からの効果的な支援(3LA)



介護者の就労継続の可否に係る意識別にみる勤め先からの効果的な支援は、「自営業・フリーランス等のため、勤め先がない」を除くと、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」の順に多くなっています。

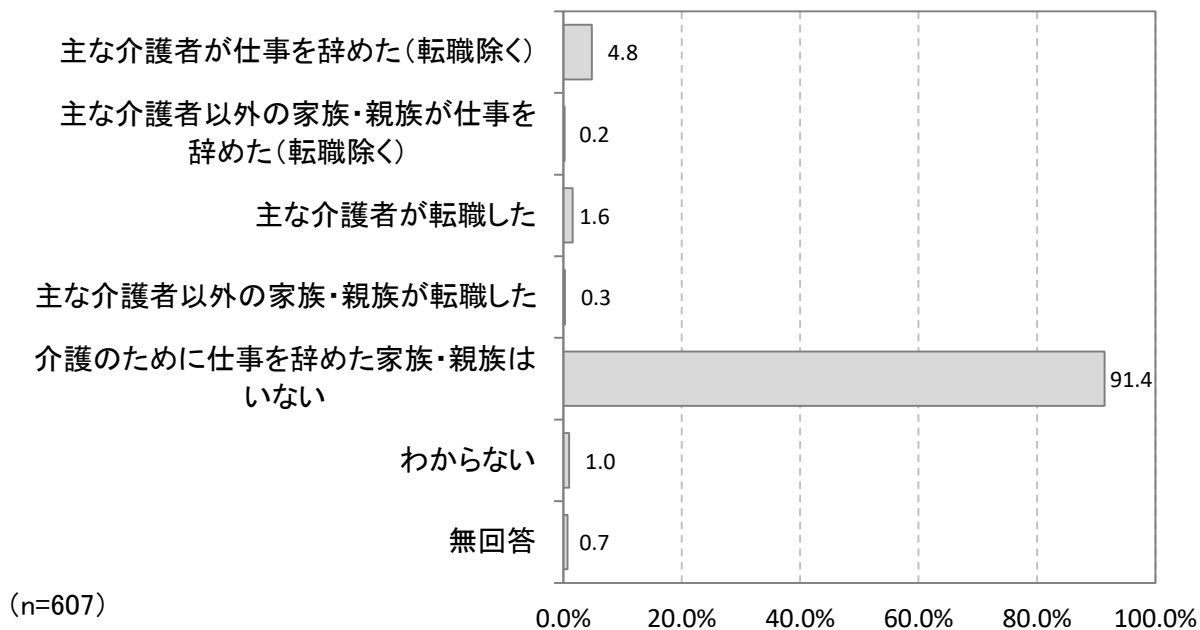
勤め先からの効果的な支援(3LA)



(7) 介護のための離職の有無

家族や親族の中で、介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた人がいるかを尋ねると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が91.4%を占めており、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」と回答した人は4.8%となっています。

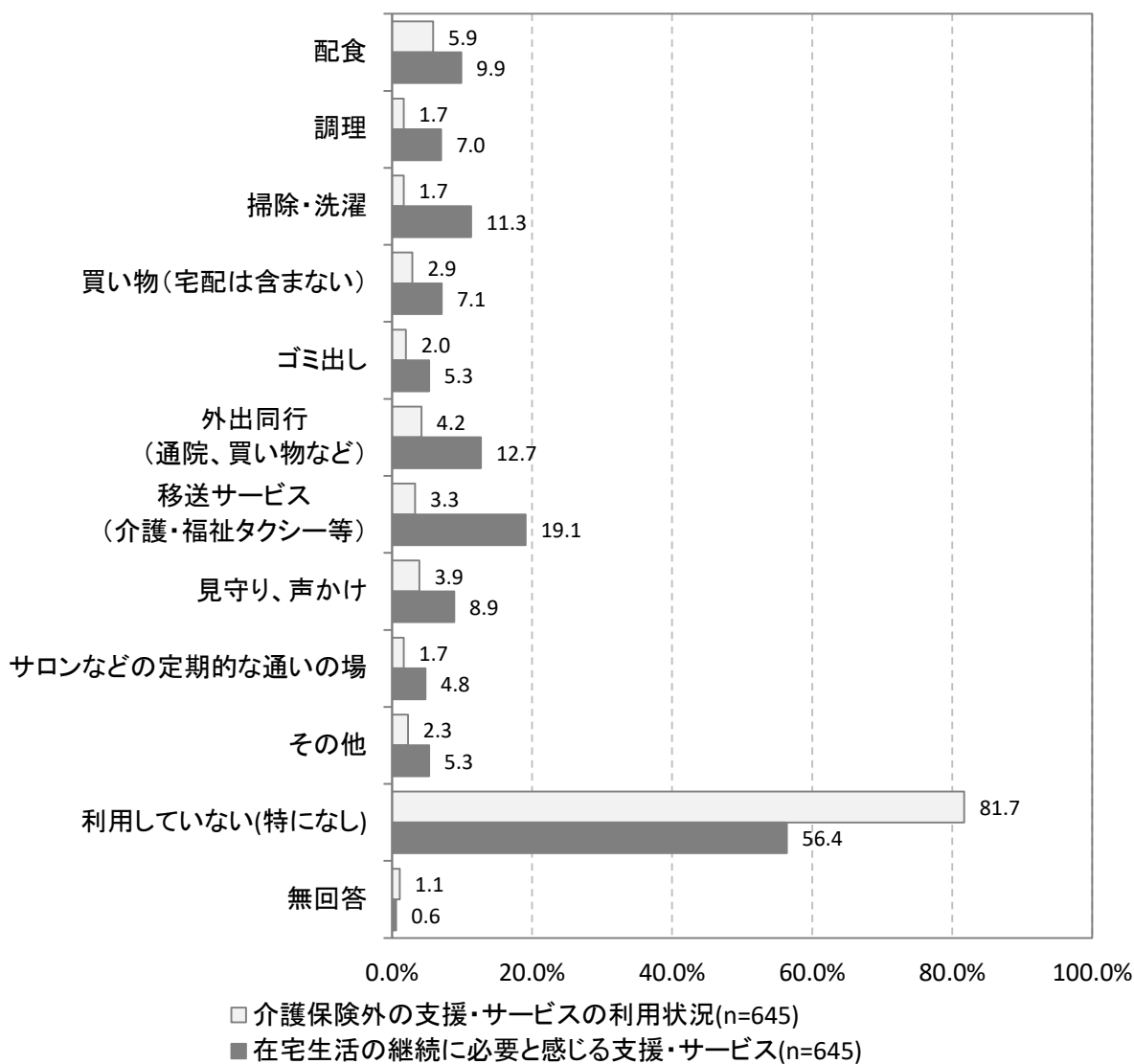
家族や親族の中で、介護を主な理由として
過去1年間に仕事を辞めた人の有無(MA)



(8) 介護保険サービス以外の支援・サービスについて

介護保険サービス以外の支援・サービスを、現在利用中のものと今後の在宅生活の継続に必要なものとで比較したところ、今後の在宅生活の継続に必要なものとして「掃除・洗濯」「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が多くなっています。

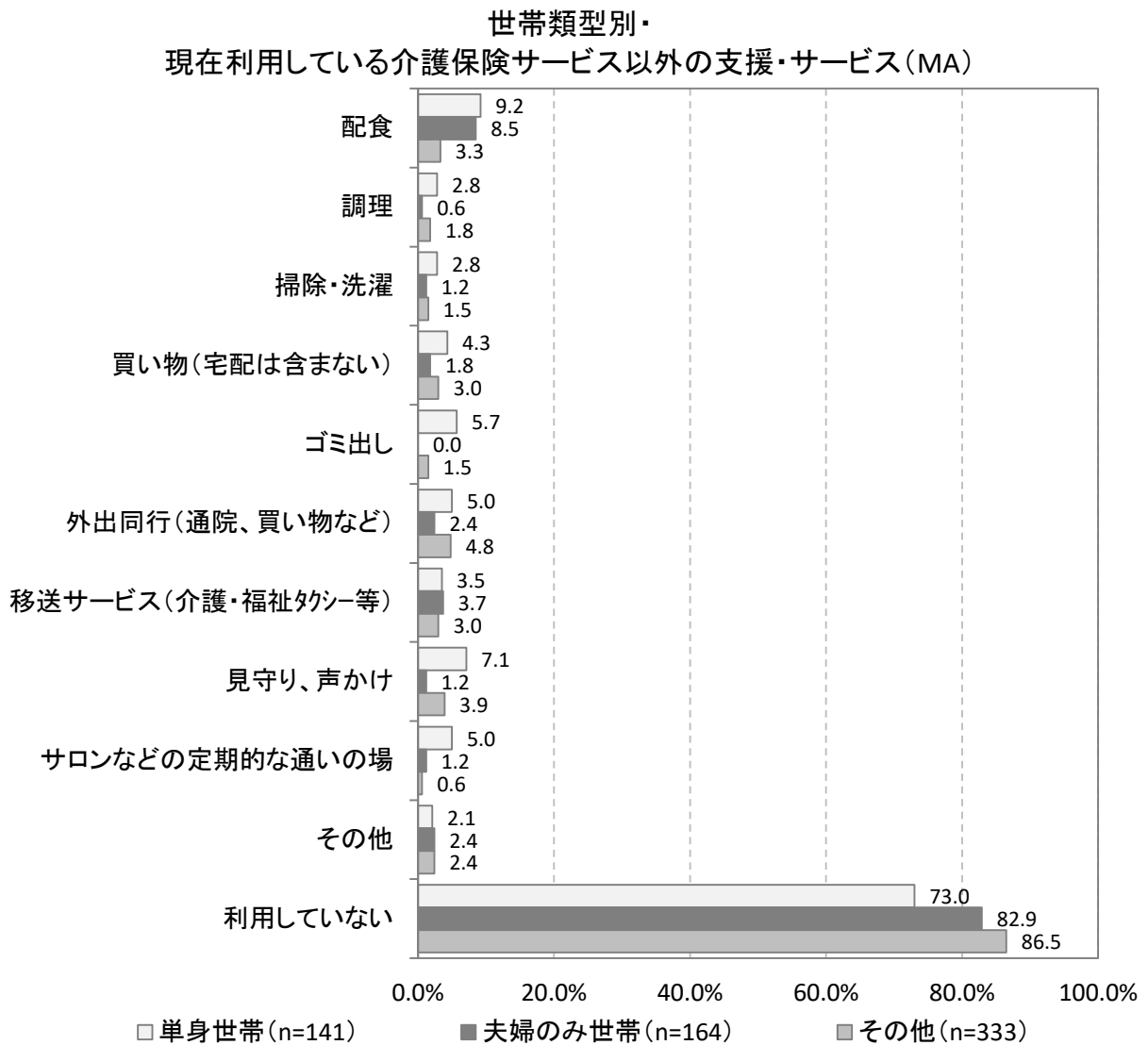
介護保険サービス以外の支援・サービス(MA)



現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスを世帯類型別に見ると、全ての世帯で「利用していない」が一番多くなっています。

「利用していない」以外の項目を見ると、「単身世帯」では「配食」が最も多く、次いで「買い物（宅配は含まない）」「ゴミ出し」「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」「サロンなどの定期的な通いの場」で多くなっています。

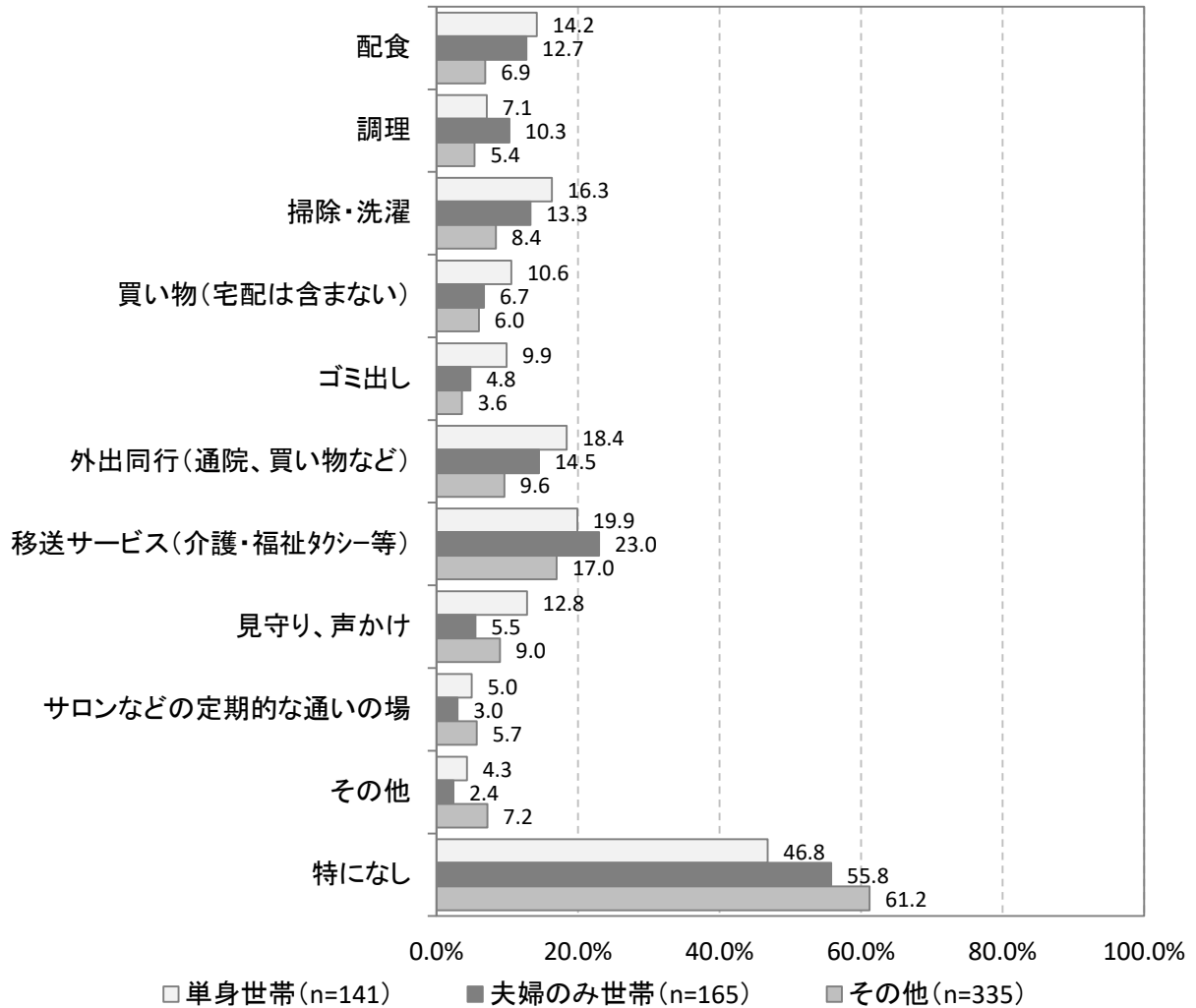
「夫婦のみ世帯」では「配食」が最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」の世帯類型では「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」「配食」の順で多くなっています。



今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを世帯類型別に見ると、全ての世帯で「特になし」が一番多くなっています。

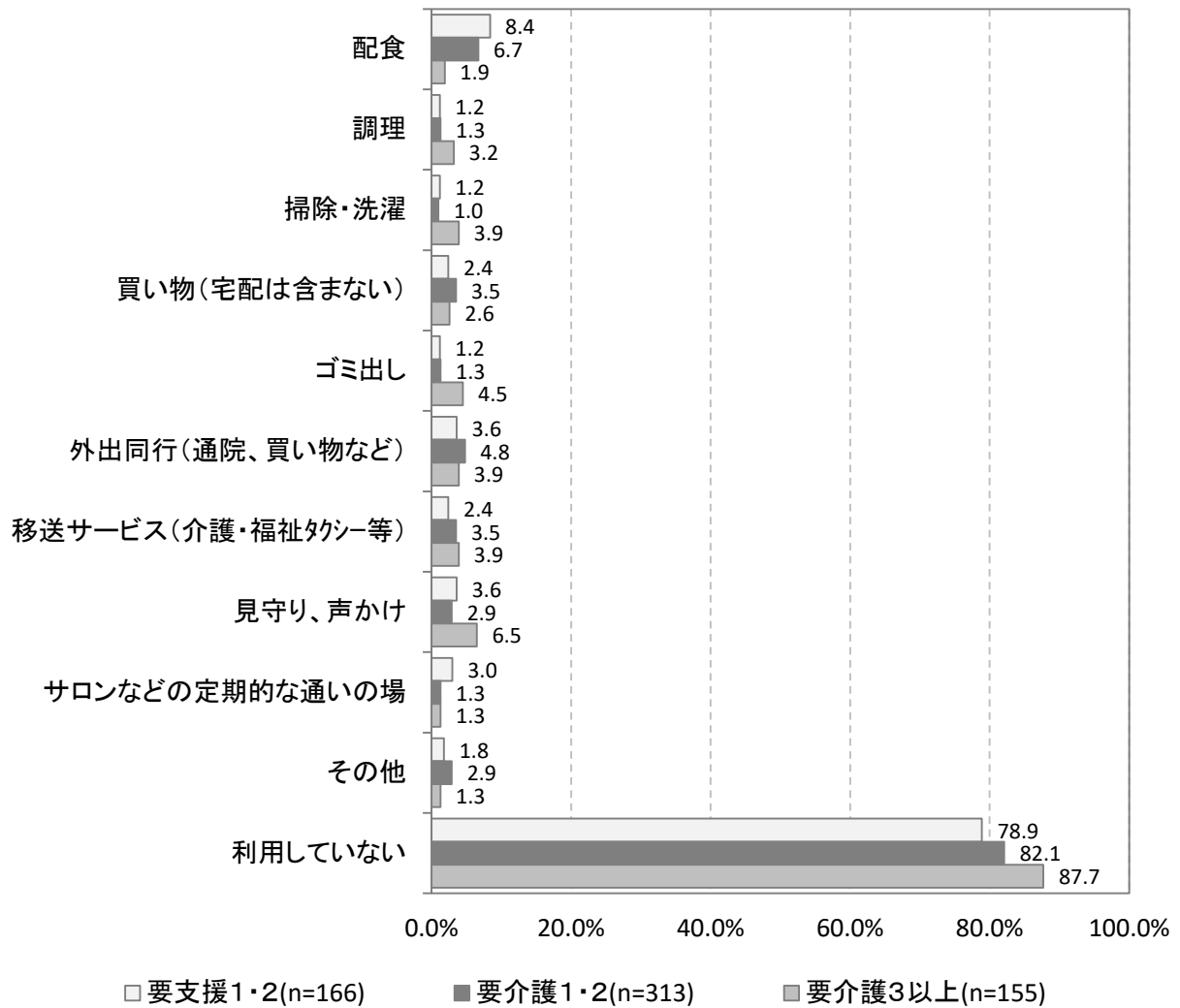
「特になし」以外の項目を見ると、全ての世帯で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「外出同行（通院・買い物など）」「掃除・洗濯」の順に多くなっています。

世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(MA)



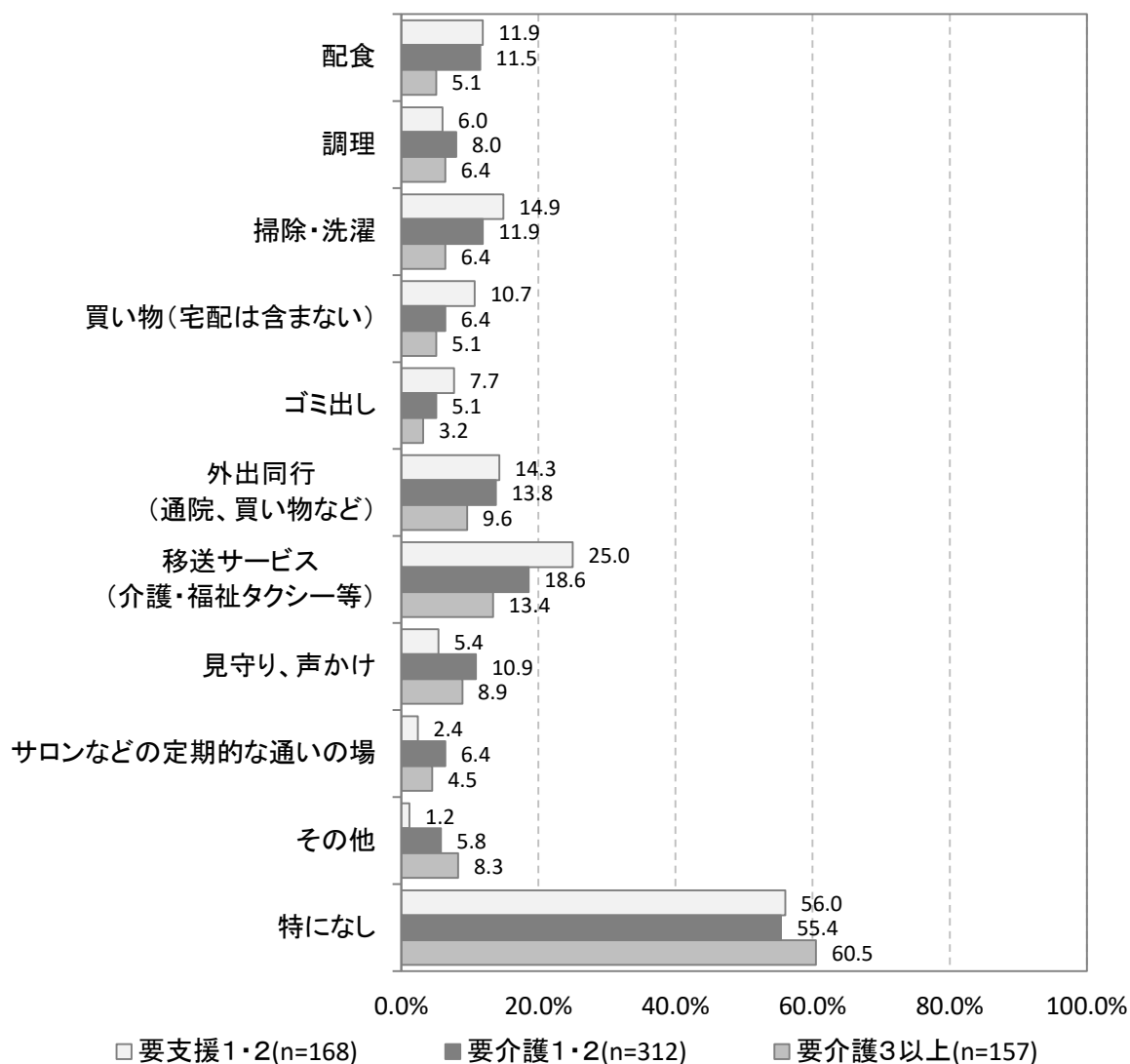
現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスを認定該当状況別に見ると、要支援1・2及び要介護1・2では「配食」、要介護3以上では「見守り、声かけ」が最も多くなっています。

認定該当状況別・
現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス(MA)



今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスを認定該当状況別に見ると、要支援1・2及び要介護1・2では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「掃除・洗濯」「外出同行（通院、買い物など）」が多くなっています。要介護3以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」となっています。

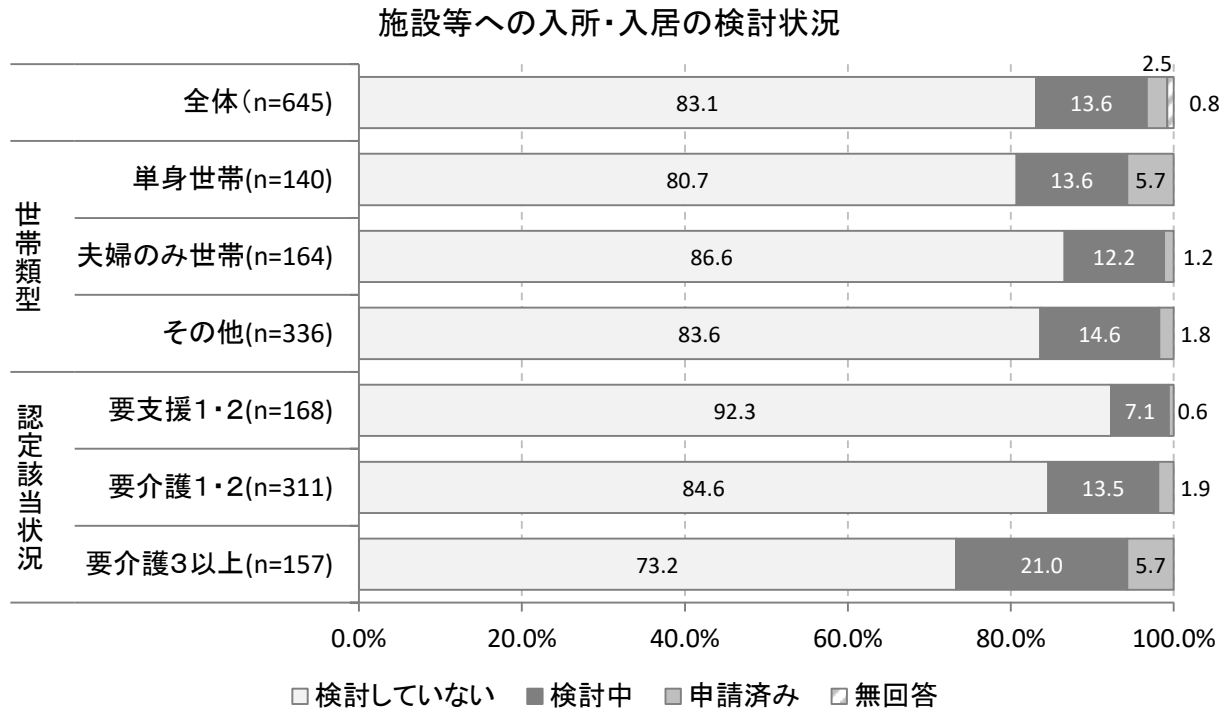
認定該当状況別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(MA)



(9) 施設等への入所・入居の検討状況

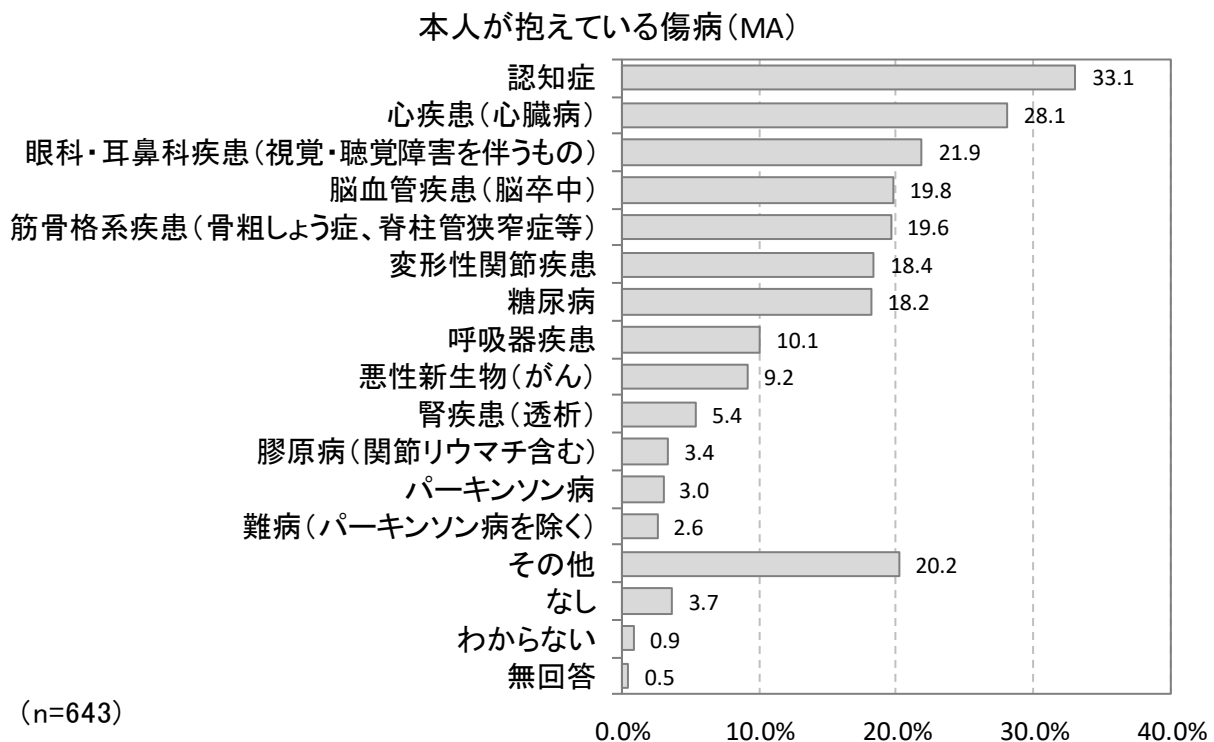
現時点での施設等への入所・入居の検討状況を尋ねると、全体では「検討していない」が83.1%を占めていますが、世帯類型別では「検討中」又は「申請済み」と回答した人は「単身世帯」「その他」「夫婦のみ世帯」の順に多くなっています。

また、認定該当状況別では「検討中」又は「申請済み」と回答した人は、介護度の重度化に伴って多くなっています。



(10) 本人が抱えている傷病

本人が抱えている傷病は、「認知症」が最も多く、次いで、「心疾患（心臓病）」「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の順で多くなっています。

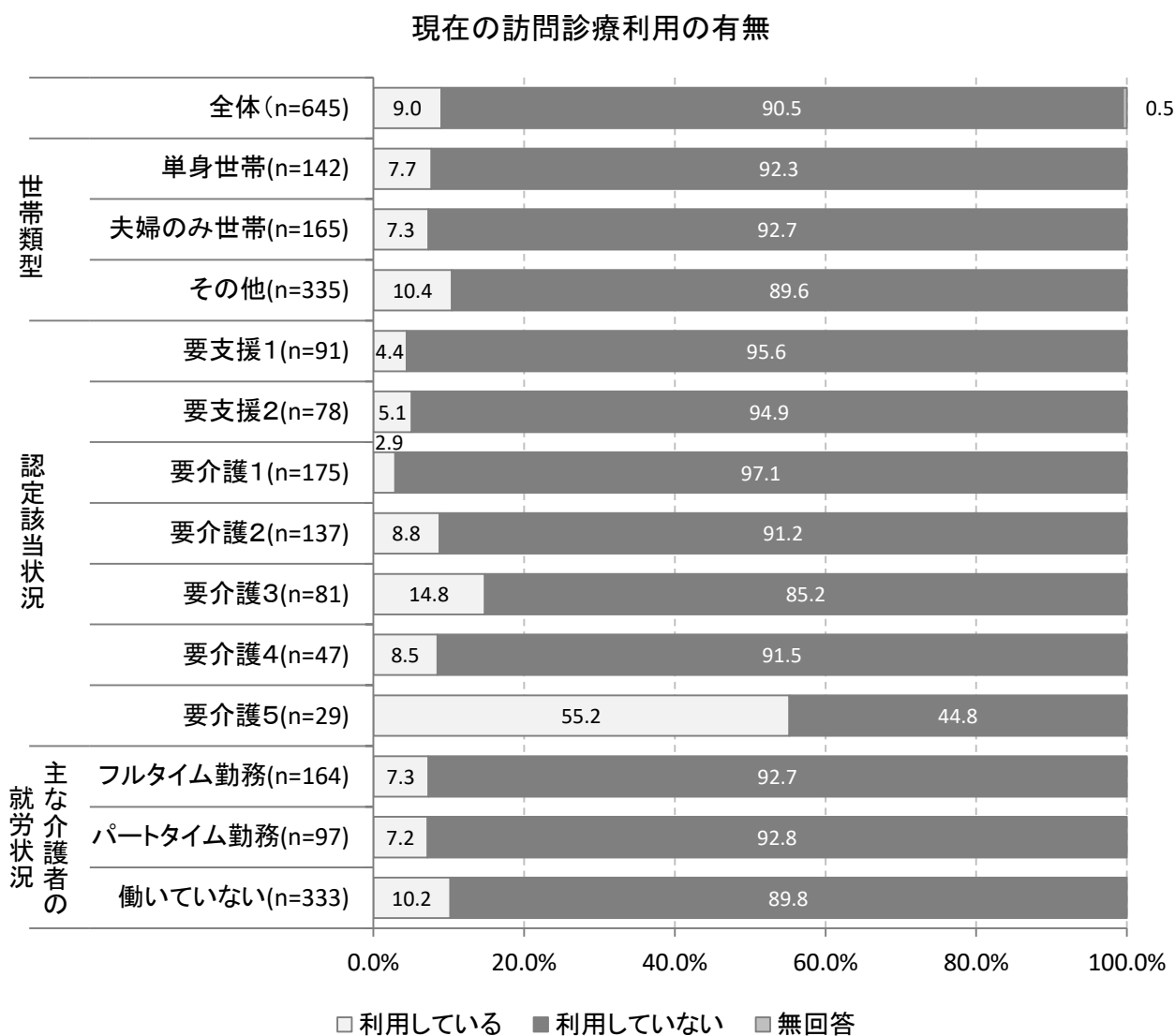


(11) 訪問診療利用の有無

現在、全体の約9割が訪問診療を「利用していない」と回答しています。

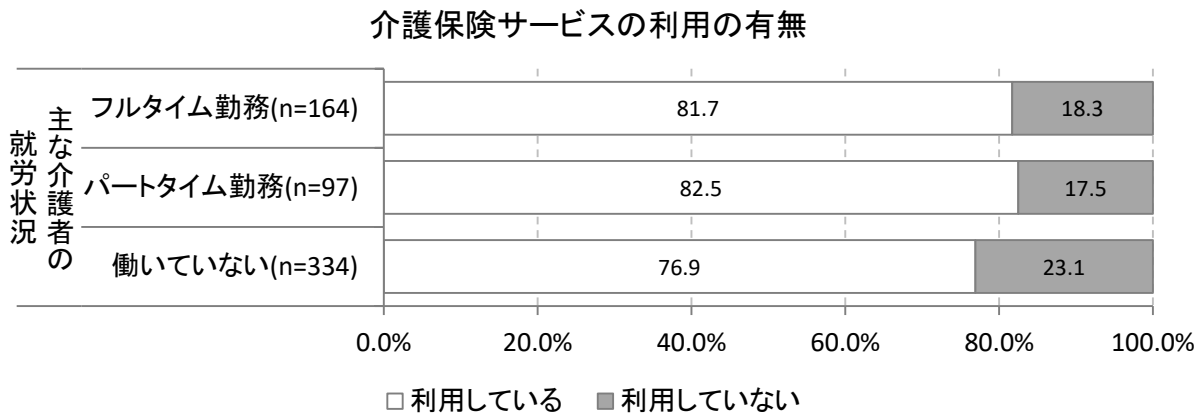
「利用している」と回答した人を世帯類型別に見ると、「その他」「単身世帯」「夫婦のみ世帯」の順で多くなっています。

「利用している」と回答した人を認定該当状況別で見ると、「要介護5」のみ多く、約半数の55.2%が訪問診療を利用しています。

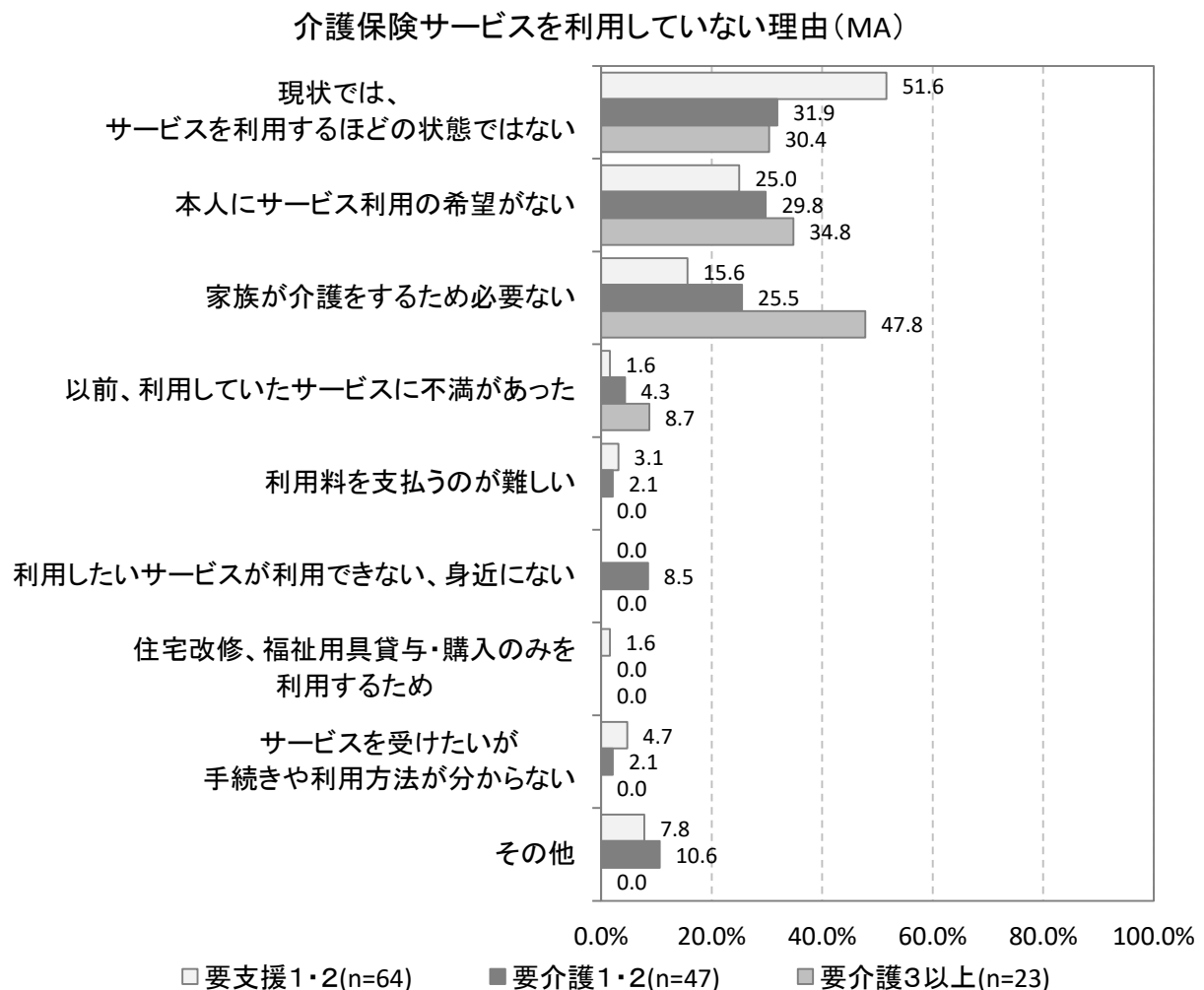


(12) 介護保険サービス利用の有無

現在の介護保険サービスの利用状況（住宅改修、福祉用具貸与・購入を除く）を主な介護者の就労状況別に見ると、すべての就労状況で約8割が介護保険サービスを利用しています。

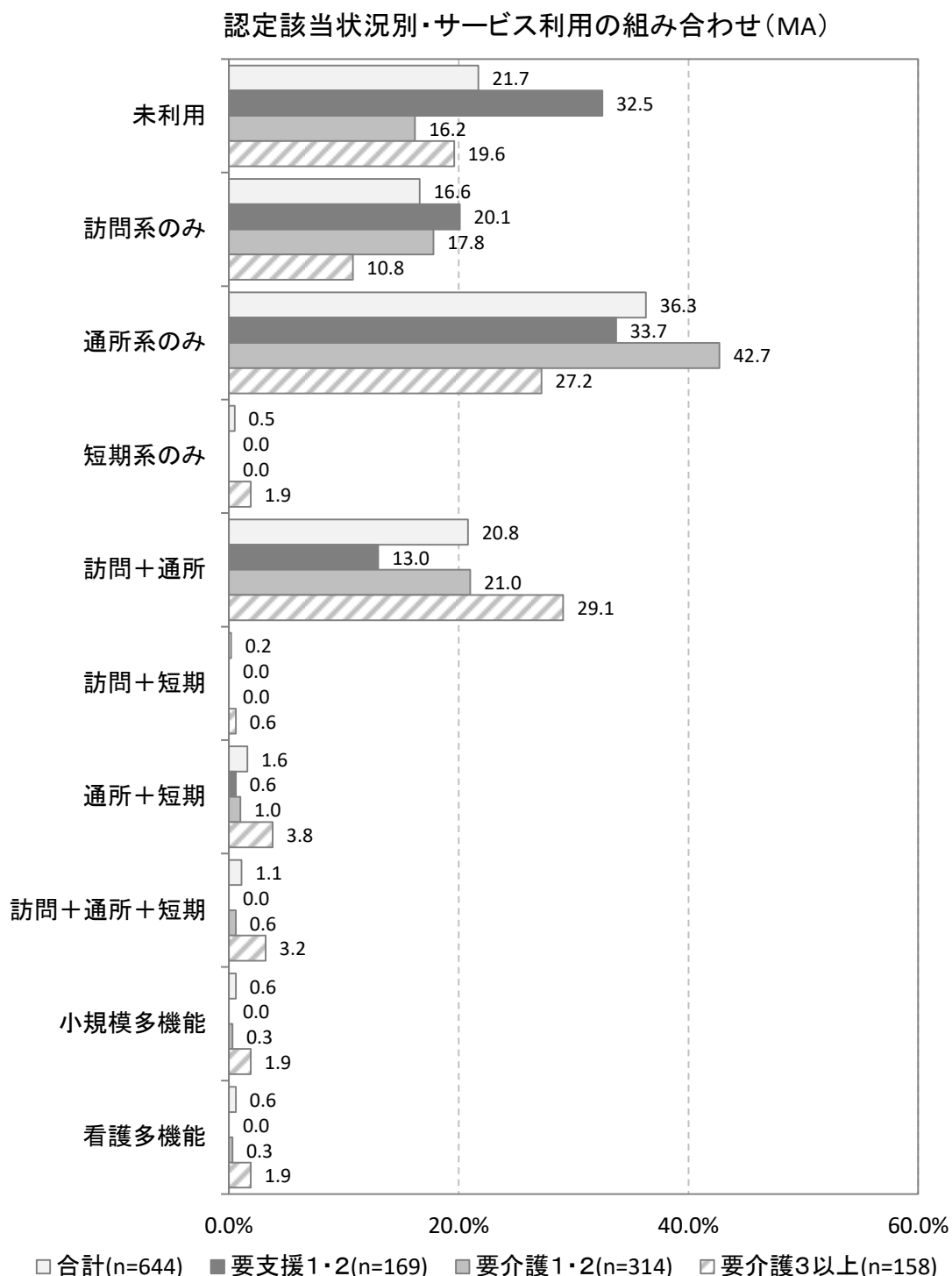


介護保険サービスを利用していない理由を認定該当状況別に見ると、「要支援1・2」及び「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、要介護3以上では「家族が介護をするため必要ない」が最も多くなっています。



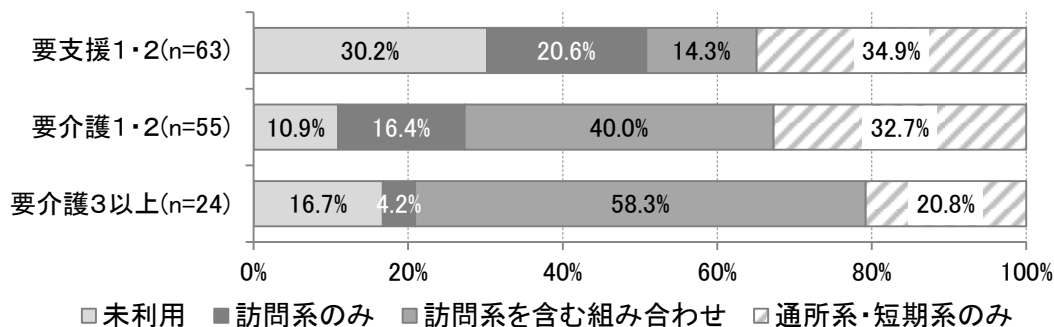
(13) 介護保険サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを認定該当状況別に見ると、要支援1・2と要介護1・2では「通所系のみ」が一番多く、要介護3以上では「訪問+通所」が一番多くなっています。

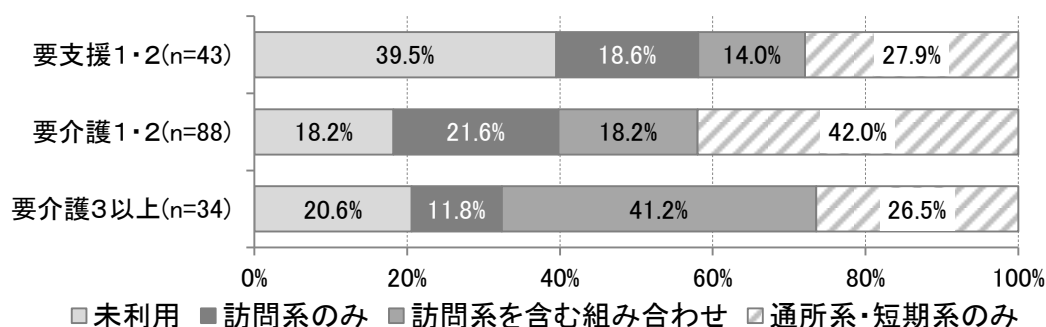


各世帯類型のサービス利用の組み合わせを認定該当状況別に見ると、全ての世帯類型での共通点として、介護度が上がるにつれて「訪問系を含む組み合わせ」のサービス利用の割合が多くなり、「未利用」の割合は「要支援1・2」「要介護3以上」「要介護1・2」の順に低くなっています。

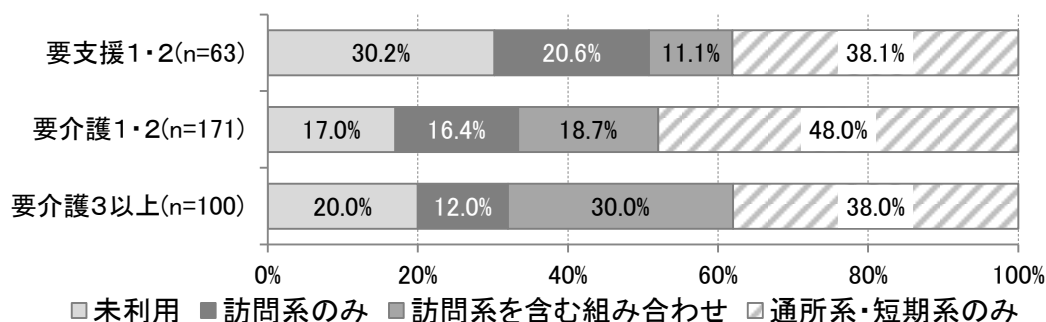
認定該当状況別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)



認定該当状況別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)

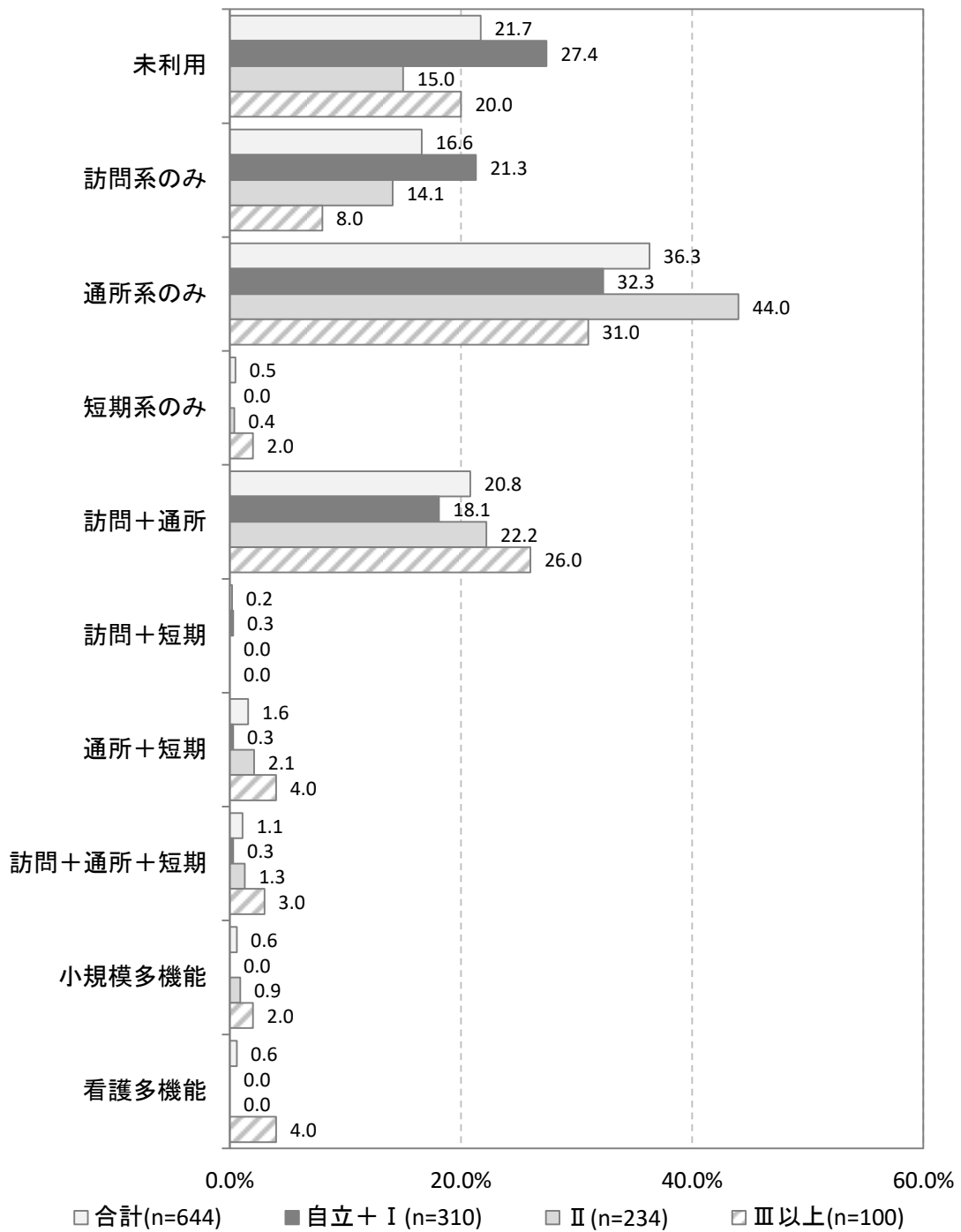


認定該当状況別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)



サービス利用の組み合わせを認知症自立度別に見ると、全ての項目で「通所系のみ」が一番多くなっています。

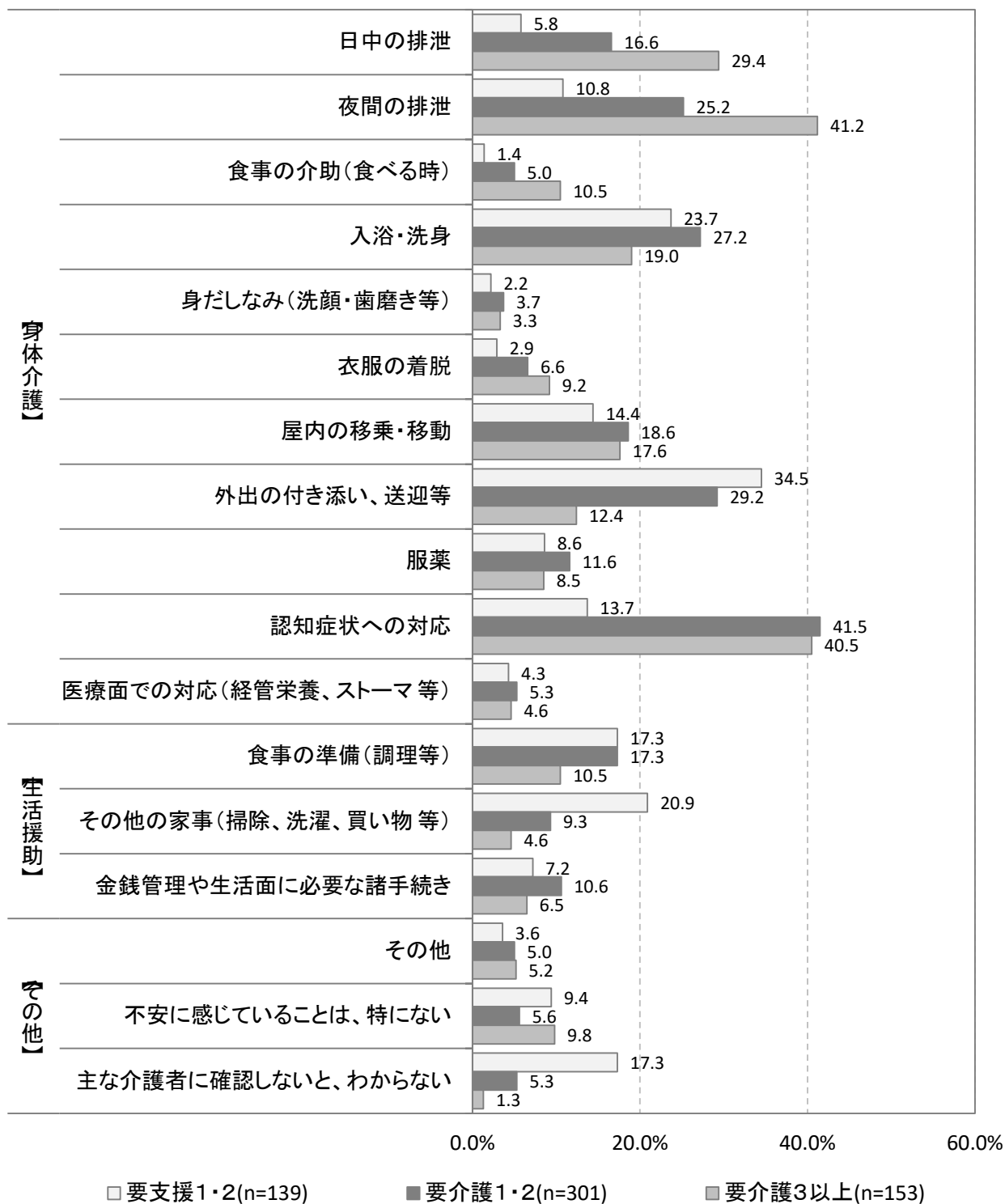
認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(MA)



(14) 介護者が不安に感じる介護等

現在の生活を続けていくにあたって主な介護者が不安に感じる介護等を認定該当状況別に見ると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」、「要介護1・2」では「認知症状への対応」、「要介護3以上」では「夜間の排泄」が最も多くなっています。

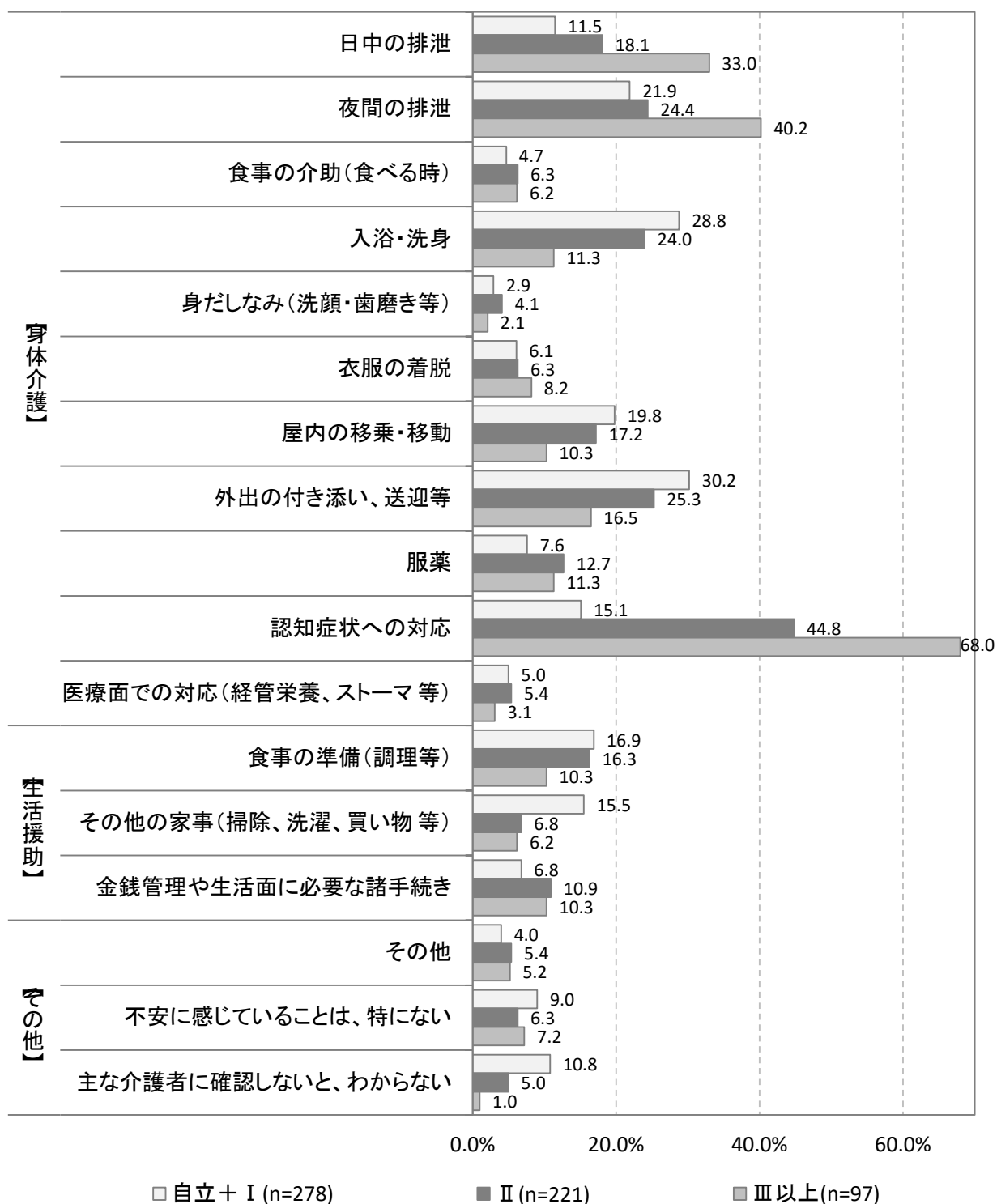
認定該当状況別・介護者が不安に感じる介護等(3LA)



現在の生活を続けていくにあたって主な介護者が不安に感じる介護等を認知症自立度別に見ると、「認知症自立度：自立+Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が最も多く、次いで「入浴・洗身」となっており、「認知症自立度：Ⅱ」「認知症自立度：Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が最も多くなっています。

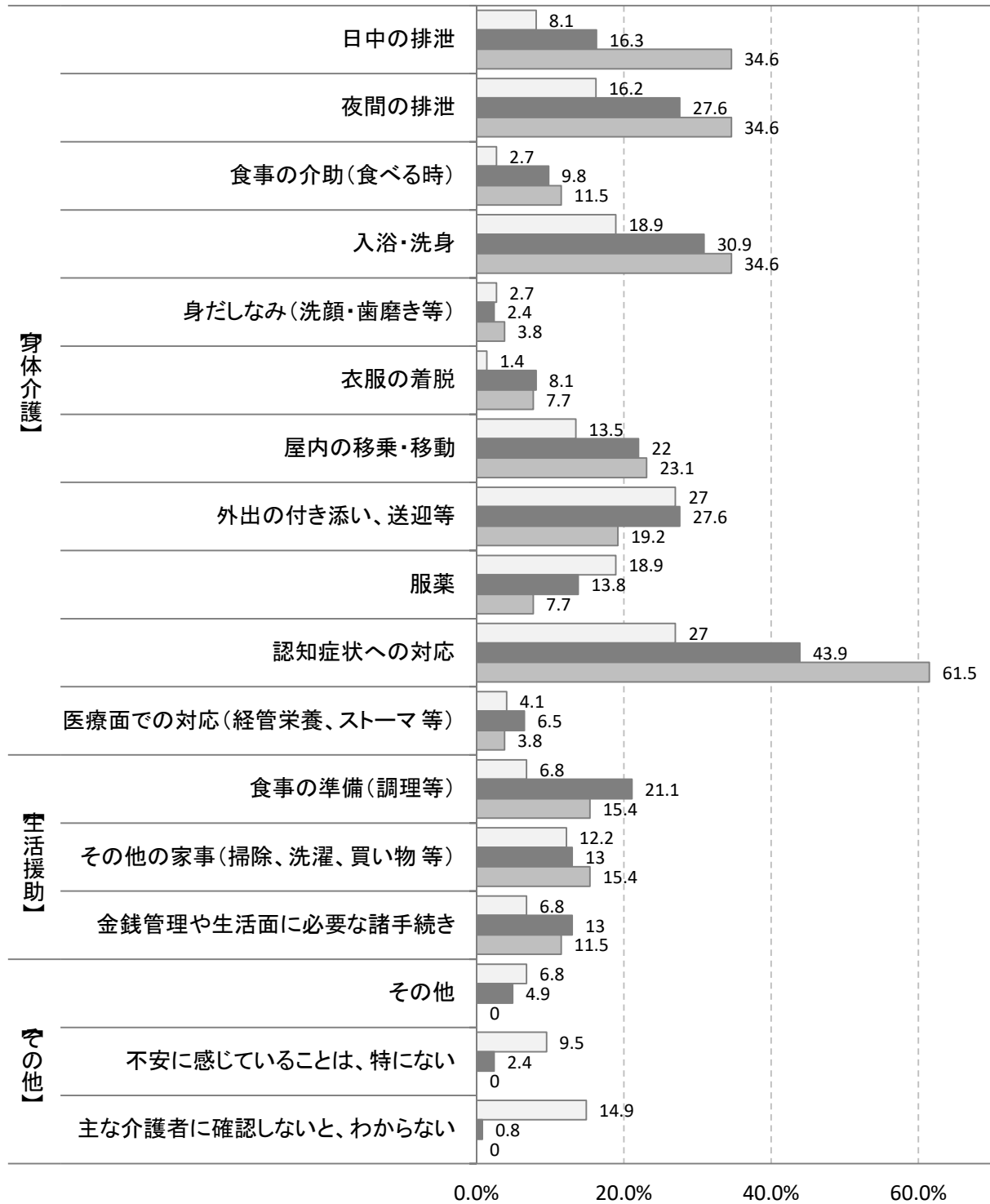
また、認知症自立度が低くなるにつれて、「日中の排泄」「夜間の排泄」「衣服の着脱」「認知症状への対応」が多くなり、認知症自立度が高くなるにつれて、「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が多くなっています。

認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護等(3LA)



就労している介護者が不安に感じる介護は、全体で見ると「認知症状への対応」「入浴・洗身」「夜間の排泄」の割合が多くなっています。

就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護等
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)(3LA)



- 問題なく、続けていける(n=74)
- 問題はあるが、何とか続けていける(n=123)
- 続けていくのは「やや+かなり難しい」(n=26)